

空と道とのモビリティをはじめ 「日本一元気な愛知を作る」

製造業を中心に日本経済をけん引してきた愛知県。新型コロナウイルスの感染拡大による苦境も乗り越え、再び産業が勢いを増す一方で県民からは物価高に苦しむ声も聞かれる。750万県民の生活を守り、さらなる経済発展を期す大村秀章愛知県知事に就任後13年の県政運営の成果と2024年以降の愛知を展望してもらった。(聞き手は塚本隆編集長、中原道文編集顧問)

——間もなく知事4期目の1年が経過。これまで13年間の県政運営を通じて成果などをお話してください。

大村知事 就任以来「日本一元気な愛知をつくる」という決意でやってきましたが、2011年の就任時はリーマンショックの傷も癒えず、すぐに東日本大震災でサプライチェーンが寸断され、日本経済も、愛知県経済もボトムでしたね。そこからどう這い上がるかが課題で、当時は円高もあり、産業の空洞化対策を減税基金という形で企業の投資を増やして雇用を呼び込もうとしました。経済産業を強くして雇用を作り、地域に定着してもらい経済が強くなる良い循環をつくってきました。

——愛知県の2020年度のGDPは10年度に比べ17.3%増と東京をはじめ上位10都道府県でトップの伸び率になりました。

大村 そうですね。何とか経済の好循環を実感してもらえたと思います。その後20、21年度はコロナ禍がありましたが、いち早く成長軌道に乗って23年度はトヨタ自動社始め自動車産業各社は半導体も確保でき、フル生産中です。このように盛り上がってきた経済産業を引き続き力強くしていきます。また、今後さらに重要となるのは人づくりですね。引き続き教育、医療、福祉の充実をしっかり取り組むとともに、国内外から多くの人に来てもらい交流を通じて切磋琢磨していくことが重要です。

——そのための具体策は。

大村 世界中から人に来て貰う仕掛け作りとして取り組んでいるのが「ジブリパーク」です。昨年11月に開園したジブリパークは、24年3月には「魔女の谷」エリアが完成し、5エリア開園を迎えます。また、世界中からスタートアップ人材を集める仕掛けとして24年10月に「STATION Ai」(ステーション・エーアイ)を開業する予定です。その後も25年度にはアジア最大規模の「愛知国際アリーナ」がオープン、26年秋にはアジア・アジアパラ競技大会を開催、27年以降にはリニア中央新幹線が開業予定です。中部国際空港は、将来の2本目の滑走路実現を目指して計画を着実に進めていきます。これらの取組を着実に進めることで国内外から人を集め、人を作っていく。引き続き、そうした仕掛けを具現化・具体化していきたいと思っています。

——ジブリパークや、今後の愛知県の観光振興についてはどう考えていますか。

大村 スタジオジブリ作品に登場するキャラクターをモチーフにした初公開のコンテンツがドンドン出てきます。例えば、ジブリパークのある愛・地球博記念公園内では「ネコバス」も走ります。世界のオンリーワンの魅力満載の公園となりますので、多くの皆さんに来ていただきたいですね。ジブリ作品には、コアなファンがたくさんいて、すでに国内外のリピーターも増えています。ジブリパークでは、来場者数の「量」を追求するのではなく、人数を制限して

ゆったりと見て楽しんでいただくという「質」を追求しています。企画展示の鮮度を保ちつつ、公園内でもイベントを開催して更に盛り上げていきたいと思っています。現在、そのジブリパークを核に、愛知県内を周遊するコースを10コースほど設定し、WebサイトなどでPRしています。また、2025年には、愛知万博20周年の記念事業も開催を予定しています。

——STATION Aiの進捗

状況と目指す姿、期待される業種等について、お聞かせください。

大村 STATION Aiは新たな事業、ビジネスを起こしてもらおう人を集める拠点で、オープン5年後に1000社の集積を目指しています。ありとあらゆるジャンルの人に来てチャレンジしていただければ、と思いますが、まずはIT、デジタルですね。愛知ではすでにスタートアップのプロジェクトを立ち上げていて、一つは「あいちモビリティイノベーションプロジェクト」で、「プロドローン社」の大型ドローンでモノを運び、「SkyDrive社」の空飛ぶクルマが人を運び、地上に降りてきたら自動運転で移動するというプロジェクトです。それからヘルスケアも、今年9月に、県と国立長寿研究センターが連携して33機関で、「あいちデジタルヘルスコンソーシアム」を立ち上げました。さらに農業分野でも18のイノベーションプロジェクトを進めています。パワーアシストスーツは実用化していますし、畑の状況をセンサーで見える化するシステムも開発を進めています。あと環境分野でも盛り上げていきたい。

——円安もあり、物価高が継続。県民生活や企業を守るための県の取り組みは。

大村 2021年の1月から円安が始まり、



大村秀章(おおむら・ひであき)1960年3月碧南市生まれ。82年東大卒、農林水産省入省。96年衆院選初当選。2008年厚生労働副大臣、09年衆院議員5期目に入った翌10年愛知県知事選で初当選。23年4選、近く4期の1年目を迎える。

当時は1ドル104円でしたが、今は140円台半ば。資材や人件費も上がるなどいろんなものが値上がりしています。困っている県民の皆さんをしっかりと支えられるように2021年度から23年度まで物価高対策の予算を組んできました。中小企業、医療、福祉施設や学校などに経費、光熱費などを補助するもので、今後もきめ細かく対応していこうと考えています。

——アジア大会などもあります。県と名古屋市との連携、特に河村たかし市長の対応に懸念を抱く県民もいます。

大村 県市の連携に特に支障はありません。私は好き嫌いで仕事をしません。名古屋市の事務方や市議会の主要会派は私の県政運営に理解を示していただいております、県・市の連携が揺らぐことはありません。

——知事は2024年をどんな年にしたいですか。

大村 24年は辰年。竜が勢いよく天に昇っていくように、愛知も勢いよく目標に向かって上昇する年にしたい。さらに言えば、竜の年なのでドラゴンズにはぜひ優勝してもらいたい。竜が雲を突き破ってその上の空に昇っていく、こんな素晴らしい光景はないでしょう。愛知県もドラゴンズも、共に昇竜の1年にしたいですね。